



信号の色はなぜ「赤・青・黄」になったの

人間の脳に速く伝わる色

わたしたちの身の周りには、いろいろな色がありますね。色えんぴつには12色や24色があります。こんなにたくさん色があるのに、どうして信号の色は赤・青・黄を選んだのでしょうか。

じつは、人間にはとても見やすい色があります。これが信号の色になった、赤・黄・青の3色で、これは世界共通です。信号は、だれでも一目見て、これは何色かがはっきりわからないといけません。目で見て、人間の脳にいちばん速く伝わる色は、赤です。ですから、信号は赤が基本になっているのです。その次は黄で、3番目が青です。

最初は赤と青だった

ところで、この信号が世界で最初にできたのは、1868年（明治元年）にイギリスのウエストミンスターで、赤と青の2灯でした。これに黄が加わったのは、1918年（大正7年）のアメリカ・ニューヨークでした。

日本では、1919年（大正8年）に東京の上野広小路の交差点で、赤と青の手動式の信号ができたのが最初で、以後、信号の数はどんどんふえてきました。

（監修・保岡 孝之）

